

# 楽々亭通信

発行：NPO法人没イチの会・京都



## 5月の楽々亭を 開催いたしました

本願寺派布教使

安堂芳雅

「経教はこれを喩ふるに鏡のつと」

こんにちは、安堂です。みなさんゴールデンウィークはどこかに出かけられましたか。

私はお寺の行事が忙しく、どこへも遊びにいけませんでした。

だからというわけではありませんが、今月の半ばに京都の北部、伊根町で「舟屋」を観る計画を立てています。

まるで海に浮かんでいるような舟屋の風情に惹かれます。海が泳ぎにくい場所から観に行く場所にかわると



は、私も歳を重ねたもので。また今回は舟屋だけでなく、丹後半島の浦島神社にも行く予定です。

というのも、浦島神社の本殿が老朽化で傾いてきていて、本殿大改修プロジェクトがたてられたからです。しかし、工事予算七千万円に対しその半分も集ま

っていないらしく、まさに「うらしまたろう、大ピンチ！」

拝観料の八百円では焼け石に水ですが、太郎を助けに行ってきます。

さて、浦島太郎の昔話は皆さんもよくご存知だと思います。

こんなお話でしたね。

むかしむかしのお話です。浦島太郎という優しい漁師がおつかさんと二人で暮らしていました。

「おつかさん、海で魚をとってくるね」太郎が浜に出ると、子供たちが小さなカメを棒でつついて

遊んでいました。優しい太郎はその子ガメを助けて海へ返してやりまし

た。次の日、太郎が海で漁をしていると、大きなカメがやってきました。

「太郎さん、昨日は坊やを助けてくださって、ありがとうございます。あ

お礼に竜宮城へご案内します」

太郎はカメの背中に乗って海の中へ入っていき

ました。上を見ればキラキラ輝く水面、下にはゆ

らゆら揺れるサンゴ、海

の世界はとってもきれいでした。

竜宮城に着くと乙姫様が、「太郎さんいらつしゃい、ゆつくりしていつてくだ

さいね」

と歓迎してくれました。竜宮城には、美味しい御馳走がいっぱいで、真珠

貝が素晴らしい声でうたい、それにあわせてタイやヒラメが楽しそうに踊

っています。竜宮城は夢のような場所

でした。楽しい毎日であつという間に過ぎていきました。

太郎はふと、村に残してきたおつかさんのことを思い出しました。そろそろ帰

えられないと、おつかさんが心配しているだろ・・・。

乙姫様はお土産に玉手箱をくれました。

しかし、おつかさんも、太郎の家もなく、誰も知っている人がいません。

あれから三百年も過ぎていたのです。

途方に暮れた太郎が玉手箱をあけてみると、中から真つ白な煙がもくもくも

く。

あつという間に太郎は白いひげのおじいさんになりました。おしまいおしまい

普通の浦島太郎はこんなお話です。

けれど、私が子供の頃母から聞いた浦島太郎の話は、最後がちよつと違っていました。

あれから三百年も過ぎていたのです。

途方に暮れた太郎が玉手箱を開けると、中には一枚の鏡が入っていて、その鏡

には髪も鬚も真つ白な皺だらけの自分が映っていました。

太郎ははじめて自分の姿を知りました。

おしまいおしまい。

■中国の善導大師は『観経疏』  
というお書物の中に

「経教はこれを喩ふるに鏡の  
ごとし」、仏さまの教えは鏡の  
ようなものです、とおっしゃっ  
ておられます。では仏法の鏡に  
よって映し出された私はどんな  
私でしょうか。

親鸞聖人はそのありようを、  
「煩惱に眼が塞がれている」と  
おっしゃっておられます。

煩惱とは、「私」にとらわれ  
る心です。私たちは自分の経験  
や価値観をもとにして、あれこ  
れと思いを巡らして生きていま  
す。しかし真実を持たない私は  
それが正しいかどうかを判断す  
る術を持ち合わせていません。  
にもかかわらず私の経験、私の  
価値観、私が見たものに間違い  
がないと思っています。

どうしてでしょうか？それは  
私たちの眼は肉眼の眼も、心の  
眼も相手を見る事しかできない  
からです。

仏さまの教えにあい、仏法と  
いう鏡を通して、はじめて自分  
のすがたをしらされます。煩惱  
具足の私の姿、迷いを迷いと知  
らない私、すぐわれることにな  
い私であったと知らされます。  
と同時に、その煩惱をさまざま  
としない阿弥陀さまにすでに抱  
きとられてあった私だといふこ  
とが、、仏さまの教えを聞く  
ことを通して知らされるので  
す。



楽々亭 6月の予定

6月15日(土)

西京区役所洛西支所第三会議室

午後1時30分～3時30分



### 楽々亭通信

発行元：NPO法人 没イチの会・京都

住所：京都市西京区大枝北沓掛町一丁目5番地2-406

TEL：075-874-5320 FAX：075-874-5328

MAIL：kago@botuichi.com

●楽々亭通信では、皆様の投稿を募集しております。身の回りの出来事や体験談など、何でも結構です。楽しかったこと、つらい思いをしたことなど、様々な胸の内を皆様と共有して行きたいと考えております。